

春期の高温傾向に対応した技術対策について

福島県農林水産部農業振興課

1月、2月の月平均気温は下表のとおり平年に比べて記録的に高くなりました。

表 月平均気温の平年差

	福島	若松	小名浜	白河
1月	+2.3℃	+3.4℃	+2.6℃	+2.5℃
2月	+2.3℃	+2.4℃	+2.3℃	+2.7℃

今後とも気温の高い状況が続くことが見込まれ、令和2年3月5日付け仙台管区气象台発表の東北地方1か月予報、向こう1か月の平均気温は、高い確率が80%と予想されています。

また、令和2年3月5日付け仙台管区气象台発表の高温に関する早期天候情報（東北地方）では、3月11日頃前からかなりの高温となる見込みです。

このため、農作物の生育の前進化に伴う霜害発生や、病害虫発生の増加など、農作物への影響が懸念されますので、今後の気象情報等に注意し、技術対策を徹底しましょう。

東北地方 1か月予報（3月7日から4月6日までの天候見通し）**（令和2年3月5日仙台管区气象台 発表）**

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高い見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

東北日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。降水量は、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。

3～4週目は、高い確率60%です。

高温に関する早期天候情報（東北地方）令和2年3月5日14時30分**仙台管区气象台 発表**

東北地方 3月11日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.7℃以上

東北地方では、向こう2週間の気温は高い日が多く、8日頃からは、暖かい空気に覆われるため、かなり高くなる可能性があります。

農作物の管理等に注意してください。また、今後の気象情報等に留意してください。

【 麦 】

生育が早まっていますので、適期の追肥等の基本技術を徹底しましょう。また、凍霜害が発生した場合でも、以下の技術の実施により、収量や品質を確保することができます。

1 追肥（小麦、大麦共通）

追肥（穂肥）は、中通り・浜通りでは3月上旬、会津地方では3月中旬を目安に行います。追肥量は、窒素成分で3～4 kg/10 a とします。茎葉が繁茂しているほ場では、1 kg/10 a 減肥します。

2 除草

ほ場全体に雑草の発生が確認されたら、速やかに茎葉処理剤を散布します。

3 その他

降雨後の排水対策として、明きょや排水溝の点検を行いましょう。

出穂期も早まることが予想されますので、赤かび病の適期防除に努めましよう。

【 野菜 】

1 イチゴ

(1) 気温が高いと生育及び果実の熟度が進むため、換気を図り温度管理に注意するとともに、適期収穫・鮮度保持に努めましよう。

土壌の乾燥にも注意しかん水により適正な土壌水分を保ちましよう。

(2) ハウス内の温度が高くなり乾燥するとうどんこ病やハダニ類、アブラムシ類等病害虫の発生が多くなるので、初期防除に努めましよう。

2 葉茎菜類

(1) ニラ

収穫遅れによる規格外品にならないよう適期収穫に努めましよう。多湿条件では、白斑葉枯病やトロケ症（腐敗病）が発生しやすくなるので、施設内の換気を図りハウス内の温度管理に注意ましよう。

(2) ネギ、ブロッコリー

越冬ネギは、抽苔が早期に発生する可能性があるため、適期収穫に努めましよう。

ネギ、ブロッコリー苗の定植に際しては、降雨が少なく土壌の乾燥が続く場合には、降雨後の定植や苗の活着促進のために定植後の株元へのかん水を行いましよう。

3 施設栽培（キュウリ、トマト等）

施設内温度、土壌水分を適正に管理することに留意するとともに、病害虫の発生も前進化してくるので、早期発見、早期防除に努めましよう。

また、軟弱徒長ぎみで生育している場合は、外気の流入による障害が発生しやすくなるため、温度管理に注意ましよう。

【 果樹 】

1 花芽及び葉芽の発育は平年より進んでいることから、せん定枝処理や誘引、モモの摘らいなどの管理作業は、計画的に実施ましよう。

2 発芽前の休眠期防除は時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施ましよう。

3 生育が早まると凍霜害のおそれが高まります。防霜資材は早めに準備し、樹冠下の敷ワラ除去などの対策を早めに行いましよう。

○生育情報、果樹情報等については、農業振興課ホームページをご覧ください。

URL : http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gi_jyutu03.html

【 花き 】

1 施設管理

日差しが強くなってきており、晴天時には外気温が低くてもハウス内が高温となりやすいため、目標の温度によりこまめな換気を行いましょう。特に育苗を行っているハウスでは注意が必要です。

また、土壌水分管理にも注意し必要に応じて適宜かん水を実施してください。

2 露地ほ場

霜柱等により、リンドウの根の浮き上がりが見られた場合は、通路の土等を使い早急に埋め戻しましょう。

また、通常雪の下になっているリンドウや宿根カスミソウ等については、融雪が早まり萌芽が始まると、凍害を受けるおそれがあります。強い霜が降るおそれがあるときは、ベタがけ資材等の被覆により被害を防ぎましょう。

3 病虫害防除

スリップス類やハダニ類、白さび病等、病虫害の発生が前進化する可能性があるので、ほ場内の残渣や雑草を適切に処理し、観察を怠らず早期発見、早期防除に努めましょう。

【 飼料作物 】

1 イネ科牧草については、生育が進みスプリングフラッシュ（春の急激な生育）が早まる可能性があり、倒伏による夏枯れに注意が必要です。放牧や収穫作業を行う際は、牧草の生育状況を踏まえた作業に備えましょう。

2 ムギダニは、3～4月の活動期を迎えます。草勢が弱い経年草地では、被害発生が早まることもあり、注意が必要です。牧草の生育状況を確認し、牧草が局所的に白変しているような場所がある場合は、牧草の株元を見て、ムギダニ（胴体は黒、脚は橙赤色の虫）の確認ができれば早期防除に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7344

○農業振興課ホームページ：URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>